

アップサイクル・コンテスト



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA-NC](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

【現状と課題】

現在、SDGsの17のゴールの取り組みが多方面で取り上げられている。とりわけ環境問題はみんなで考えるべき課題である。CO2の増加によって地球温暖化が進行すると、地球の気象が変化し、極端な気温の上昇による熱波や強い台風や集中豪雨などの異常気象による災害の頻発や、干ばつによる食糧危機、海面上昇による居住地の喪失などが引き起こされている。このように環境問題にも様々あるが、興味をもったのはファストファッションの問題であった。それらは焼却や埋め立てに回されることが多く、CO2 排出や土壌汚染の原因となっている。解決策としては、持続可能な生産と消費の促進、リサイクルやリユースの強化、消費者の意識向上が求められている。私達、人類が責任を持ち、環境への影響を最小限に抑える努力が必要と考え、この企画を提案したい。私達は、**新しいものを買うばかりではなく、新しいものが手に入ったら使わなくなった物を捨てるのではなく、リサイクルしたり、再利用したりしようという考えを持つようになる人**を増やしたいと考えた。しかし、着る人が価値が無いと思う服を着用することは難しい。そこで、それらのような廃材にも新しい価値があると思えるような意識変容のために、**アップサイクルするファッションの推進、またその考え方を普及させるためにファッションコンテスト**を行う事で、社会問題にアプローチしたいと考えるようになった。

廃材の行方は？ ゴミではないもの？に価値を持たせるためには！？

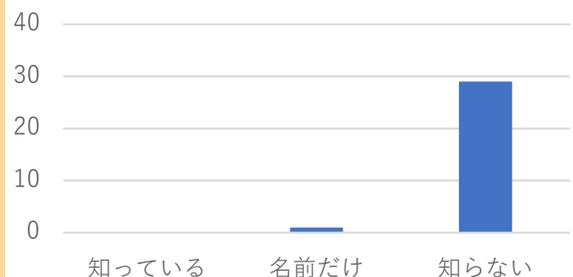
環境問題は私達の生活に大きく関わっている！？

環境に対する意識調査

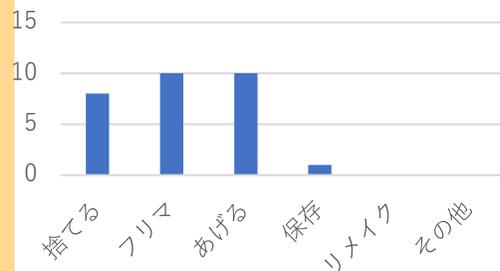
【現状把握】

クラスアンケート調査

(図1) アップサイクルを知っている？



(図2) 使わなくなった衣服はどうしている？



(図1) のアンケート結果よりアップサイクルを知らないと答えていた人が9割以上。アップサイクルの認知度が低い事が分かった。(図2) では衣服を処分しないように誰かへ譲渡したり売却している人が一番多く、二番めに捨てる人が多かった。一方で使用しなくなった衣服を保存やリメイクしている人は少数派であった。フリーマーケットで売ることや譲渡することは衣服の価値を上げられないどころか下がっていく。リメイクの必要性を広めていかなくてはならない！

【環境問題をアートで伝えるアーティスト】

長坂真護氏の作品より



衣類は他のゴミに比べて、比較的にリサイクルされている認識だったので、捨てるという感覚はあまりなかったが、ガーナには衣類が捨てられた広大な土地があって驚いた。また世界中の廃棄家電が捨てられている街もあり、世界には深刻なゴミの問題に直面している場所があることが分かった。ごみの町で暮らす人々を見て、胸が締め付けられる思いになった。しかし、私達の生活は自分の身の回りだけはキレイで、実際海洋汚染や大気汚染など、私達のごみで地球に大きな悪影響を及ぼしているのに対して、目を背けすぎているのではないか。環境問題を自分のこととして考えられていない人が多くいる。

環境問題の意識を向上させるには！？

アップサイクルを知らない人がほとんど！

アップサイクル・コンテスト

【コンテストの概要】

- 問るたる。要作だの実境識
 境すもあ不ト物もら環意
 環とをでにーるるがてを
 でう容ト達アくくなく境
 育よ変ス徒たててりな環す。
 教し識テ生い出出図と、指
 校用意ン、用らでを丸に目
 学活のコーデをか程携一もを
 、をへる式ヨ庭過連会とと
 は材方す形シ家るの社とこ
 ト廃い施なッは作と域るる
 スら合実うア材を業地なす
 テ自きてよフ廃品止。に出
 ン、付しので。製域る機排
 コめのと究材うが地作契に
 ル高とい研廃ら業、をる会
 クをノ狙由やも止等みえ社
 イ識モを自服て、る組考を
 サ意、とのたつくす仕て材
 プのでこみっ作な用る人
 ッへとす休なをで使すつた
 ア題こら夏に品けも施にし
- たで、
 持とク
 をこイ
 値るサ！
 価せプる
 ならッせ
 た返アま
 新き「組
 に生るり
 のにせ取
 もンらて
 るヨわっ
 れシ変よ
 らッれに
 てアマ「
 捨フ生ト
 てなにス
 的品テ
 と力製ン
 物魅いコ
 棄せ、し・
 廃せ新ル



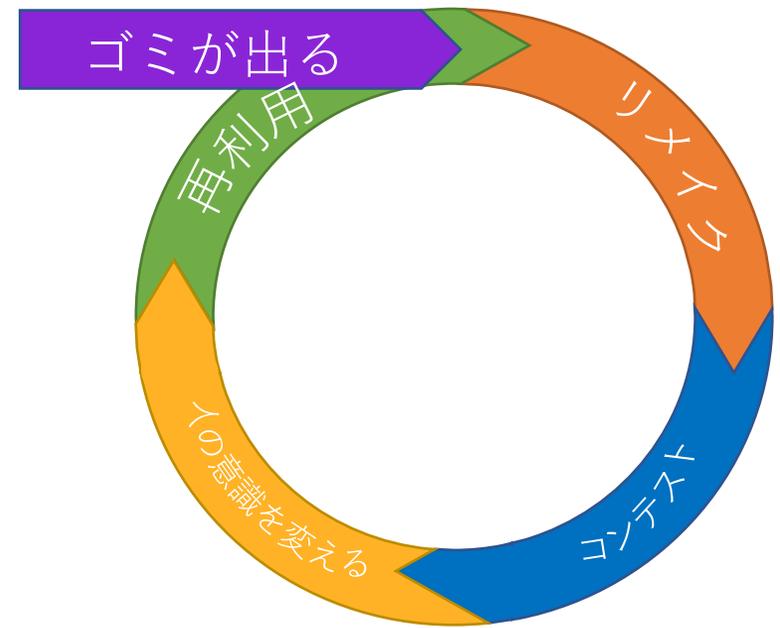
↑昨年度の探究学習（芸術探究）で制作した廃材ランプシェードと船の玩具（in宇多津）

ファッションからの環境問題へのアプローチ

アップサイクルってなあに？

コンテストの内容

コンテストは各小学校や中学校で教材として行ってもらい、地域大会→県大会→全国大会というように規模を大きくしていきたい。また、コンテストの審査員はデザイナーや環境活動家、そしてコンテスト鑑賞者による投票を行うことで興味関心の輪を広げる。コンテストを多くの人に知ってもらうため、宣伝としてポスターやSNS(Twitter〈新X〉、Instagramなど)を使って呼びかけたい。コンテストの場に居る全ての人達へゴミにも価値があるという事に気づいてもらい、「**ゴミだって生まれ変わる**」という気にさせる。また、コンテストの上位へ入ったら、副賞として高級ミシンや縫製に関する魅力的なコンテンツを商品に選択する等、新たな価値の創出に寄与するモノを提供する。「また作ってみよう」と、素材達を使ってリユースするような状態が出来れば良いと思う。



実際に私達が廃材（新聞紙）から、ファッション制作したもの

教育効果により、**ゴミが増え続けないための生産プロセス**を考えると**いった意識変容が期待できる！**（これからの時代に重要なスキル）

解決された未来

アップサイクル・コンテストは、SDGsの目標12番「つくる責任、つかう責任」にも繋がった取り組みになる。もしコンテストの規模が大きくなり広まっていけば、環境問題の深刻さに気づいたり、ゴミの価値を知って、ゴミを安易に捨てずリユースする人々が増えると考ええる。

各小学校や中学校で教材として行ってもらうことで、大人になった時にゴミを出さないリサイクルする考えを持つ若者を育てることが目標。持続可能な社会を全人類でつくっていききたい！

サーキュラーエコノミー(Circular Economy)とは、日本語訳で「循環型経済」。これまで経済活動のなかで廃棄されていた製品や原材料などを「資源」と考え、リサイクル・再利用などで活用し、資源を循環させる、新しい経済システムで、この意識を生産者がもつことが地球の環境、私達の生活環境を持続可能な状態にする。つまり、人材育成がもっとも地球の環境問題を解決するものと考えた。

12 つくる責任
つかう責任



目標12のポイント
持続可能な方法で生産し、責任をもって消費する

SDGsの考え方を一人ひとりが実践できるシステムにすることで、
みんな環境問題についてどんどんアプローチしていききたい！

